



秋葉区「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市秋葉区善道町2-9-44

Tel 0250-23-0764 Fax 0250-23-0764

<http://9jo.iinaa.net/index.htm>

自民党極右翼勢力の野望 ファシズム阻止の壮大な統一戦線を！

「暴走」の先にあるもの

自民党をのりつた極右の安倍政権の暴走がとまりません。イスラム国人質事件にかこつけた自衛隊派遣、2016年の国会での改憲の発議をめざす。もっとも国民にとっては暴走であっても、極右派にとっては、改憲・反動的な国家改造の野望の着実な一步一步です。

戦前回帰 　いつか来た道

彼らの最終目標は、「戦後レジームからの脱却」「日本をとりもどす」ことであり、「国民主権、基本的人権の尊重、平和主義」の憲法の三原則が憎い彼らがめざしているのは、憲法三原則すべてを否定し、天皇を神とおおいた70年前までの大日本帝国の復活です。

戦前の社会 　天皇制ファシズム

戦前、それは「思想犯」が監獄にあふれた恐ろしい時代でした。まさに憲法三原則の思想をもつこと自体が犯罪とされました。大日本帝国憲法には「国民」という文字がありません。国の主権者は天皇ただ一人、国民はすべて「臣民(家来)」でした。天皇は神聖にして侵すべからず、絶対の存在の君主に背くことは最大の罪、天皇の命ずるままに臣民は侵略戦争にかりだされ死んでいきました。天皇制のファシズムと呼ばれる独裁体制です。

ておくれになる前に 　沖縄に学ぶ

極右派は「天皇主権」をいいだしています。まさに天皇制ファシズムそのもの、再び「思想犯」のいる社会を許してはなりません。人々は気づいていませんが、彼らは本気、「まさか」と思う油断がファシズムを招きよせることは、ヒトラー・ドイツの歴史が教えています。ファシズムの成立過程にはそれを越えると後もどりできない「ノー・リターン・ポイント」があるといわれます。いま私たちはその分岐点にいますが、まだ間にあいます。沖縄県民が新基地建設反対で、それまで考えられもしなかった保革をこえた団結を実現して勝利したように、ファシズム反対の壮大な統一戦線に立場をこえた多くの人々が結集した時、極右勢力に残されているのは、歴史の舞台から消えさる道だけです。

積極的平和主義は危うい！

2人の理不尽な殺害に抗議する

過激武装組織「イスラム国」は、湯川遥菜さんに次いで、後藤健二さんの殺害をインターネットで公開しました。激しい怒りが体中から湧いてきました。このような無法が許されていいはずがありません。2人の殺害に断固抗議します。

安倍首相の無配慮「カイロ演説」

2人が何者かに拘束されているという事実を知りながら、安倍首相は1月17日エジプトのカイロで、次の演説をしました。

地道な人材開発、インフラ整備を含め、ISLと闘う周辺諸国に、総額2億ドル程度、支援をお約束します。

この中で「非軍事の人道支援」という文言ありませんでした。

次の日程で、首相はイスラエルを訪れ、ネタニヤフ首相とともに「テロと闘う」と宣言しました。中東でイスラエルと手を組んだと報道されれば、日本はアメリカと一体になっていると理解されるのは当然のことです。

過激武装組織「イスラム国」は、1月20日、これらを口実に日本人2人を殺害すると脅迫しました。安倍首相の中東訪問が2人の生命を危機にさらす契機になったのは、事実の経過を見れば明らかです。

日本は「戦争しない国」の

ブランドを捨てるな！

アフガニスタン、イラクで戦争を続けてきたアメリカは多くの戦死・負傷者をだし、もはやこれ以上継続できないと兵力の撤退を始めています。中東の空白を埋めてやろうと野心を抱いた安倍首相は、積極的平和主義の旗を振りかざして、危険な道に入り込もうとしています。今回の事件が、その危うさを証明しているのではないのでしょうか。

70年間「戦争しない国」として生きてきた日本は、日本国憲法が掲げる理念を生かして外交を進めることが大事だということを改めて知ることになりました。

安倍内閣の「積極的平和主義」は危うい。

平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、
皆でつなく、平和のメッセージを！

「ヘイトスピーチ」に思う！

上杉 国武（草水町）

ヘイトスピーチ（増悪表現）といわれる激しい憎悪と差別の言論と行動が東京・大阪・京都などの大都会で問題となってきている。京都では暮れに「朝鮮学校」の校門前で激しい言動がなされ、学校が閉鎖に追い込まれるという事態も生まれてきている。

第二次世界大戦の原因となった、ドイツでファシズムが台頭してくる過程で「ナチス親衛隊」による反ユダヤ・反民主主義の暴力と言論圧殺という大衆行動が吹き荒れ、こうした不当な行動が権力によって放任され、助長され、侵略戦争へと行き着いてしまった。

こうした歴史の教訓はきちんと踏まえることが大切だ。第二次安倍自公内閣が強行しようとしている「憲法の大改悪と歴史の偽造」路線はこの政権の危険な本質を示している。しかも見過ごすことができないことは、国民のなかに市民権を確立しようと一大衆運動を組織してきていることだ。

今年は戦後 70 年の節目の年です。私たちも改めて、憲法 9 条を守る一大運動を発展させる年としよう。

9条の会がアピ - ル 全国討論集会を開催！

「九条の会」（小森陽一事務局長 = 東京大学教授）は2月23日、国会内で会見し、「憲法9条を根底からくつがえす『戦争立法』と改憲の暴走を止めよう」とのアピールを発表するとともに、安倍政権の改憲暴走に対抗する運動をつくるために3月15日（日）に全国討論集会を開催することを明らかにしました。

と き 3月15日 午後1時20分 - 5時
ところ 専修大学神田キャンパス 301 教室

問い合わせ 九条の会事務局 03 3221 5075